

11/30 毎中

移転反対ムードに

業をにやす地元

各省庁のシリをたたいて

六日に合同起工式

【本音、土音】東京の過密化対策のためと二十八日、当時の副首相兼建設大臣が茨城県の筑波山麓に、筑波学園都市構想を打ち出したから六年一すてに用地買収は其の約半、地元の受入れ準備は〇、と云うのが、移転するはずの国の試験研究機関や大学の動きはさっぱりで、各機関の移転反対に各省庁も使果、腰を上げる気配がない。たまたまかねた茨城建設局長は先日「用地買収から建設へ」のふれ込で、坪山建設大臣をはじめ、関係省庁、機関代表を招いて、合同起工式、を同県筑波郡大庭町で行うことになった。果たして政府の買収シリをたたいて腰を上げさせるか否か。しんぶん、の学園都市に地帯は大きな不安を抱いて起工式を迎えようとしている。

筑波の研究学園都市

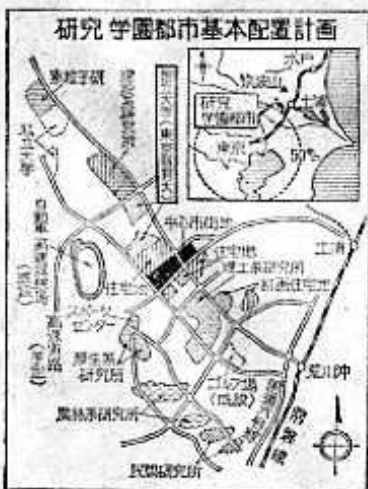


研究学園都市の建設地帯になったの学園都市を建設しようという構想。谷田町、豊平の六ヶ町村で約千五百名。名産・筑波山を仰ぐ太陽と、緑と、きれいな空気に恵まれているが、後進県城の中でも特に立地した新しい新興行地帯。ここに東京教育大、国立がんセンター、国立予防衛生研究所や農林業、園芸、畜産、林業の各試験場、私立大学など三十六機関を移し、昭和五十年には人口三万人の建設規模は、反対ムード、まさ

ばり、県や地元の数十回にのぼる促進陳情で、やっと四十三年末、科学技術庁の防災科学技術センターと無機材研究所が竣工、ことし六月には、第二期の四十七年度までには東京教育大、建設省国土地理院など十一機関の移転が開始決定で二時、軌道に乗った。

しかし、各省庁の移転反対勢力は製強、労働員が反対地帯に英領を申入れたり、予算編成で移転調査費が削られると、逆に再調査費部も、勿使とももの反対ムードに地元民は大きな盛りをふちまけている。

筑波山を仰ぐ研究学園都市建設予定地帯(筑波町で)



常務と並んで、四事長候補をばざんで、学園都市の町村に向かい合っている同県稲敷郡阿見町で、このは、断り、要用地を勝ち取ることになった。だが、その土地買収額が二〇億十萬円、これを聞いて勇にきたのが向かい側の某町、桜村、谷田町などの学園都市協力者。「われわれは二〇億三十萬円で提供したが、余りにも安過ぎた」と十萬円の上積み要求、岩上知事はこの陳情団を強硬に突っぱねた。

土地ブローカー暗躍

また、設け目的で土地を買いあさった県外地主も百六十人いるが、いづれも土地ブローカーに「二年後には五割」といわれ三・三平方町五丁で買われ、日本住宅公団の買収価格千円にひっくり、割合も低くして土地収用法で強制買収となり、取らぬタスキの皮替用、組も出ている。

「政府が理想的な学問、研究のメッカを建設したいというので町も協力した。農民も土地を提供した。ところが、政府はいまだに、どこにどこに建設するのかわからずに、先行業小売仕方がない」

「筑波町、筑波信一町長」と、政府の買収切らぬ態度に不満をもらしている。

同町は、関係町村のトップを切って四年前に千畝の用地を二〇〇買収し、旧地主から「いつまで草を茂らせているのぞ」と、つるし上げを食う始末。

さらに地帯をカッパさせているのが、最近の地帯上り。常務の取手から学園都市のターミナルとなる土浦市の間は、首都圏化に伴うスプロール現象が激しく、沿線は二・三平方十萬円というのせり。

筑波学園都市の起工式

坪山建設大臣がクワ入れ
【土音】茨城筑波山麓に建設する、日本の過密センター、研究学園都市の起工式が、六日午後二時から筑波郡大庭町石碓の旧大筑野園ゴルフ場で行なわれた。

式には、坪山建設大臣、林日本住宅公団総裁、岩上、邸茨城知事をはじめ移転、進出機関代表など約八百人が出席、坪山建設大臣らがクワ入れた。

研究学園都市は筑波山麓八町村の用地一六〇〇畝を買収、建設するもので、これまでに九〇％の買収が終わった。

しかし進出機関は科学技術庁の無機材研究所、防災センターの二つが建設を進めているだけ。このため日本住宅公団が中心となり「買収段階から建設段階にきた」として進出機関の早期移転をうながす意味での起工式を行なった。